

アジアの多様性を受け入れ ともに課題解決ができる 女性リーダーへ



山本 英子

「ウェルビーイング in アジア」実現のための女性リーダー育成プログラムプログラム担当者

多様な学生や教員が 分野を越えて集結

博士課程教育リーディングプログラム「『ウェルビーイング in アジア』実現のための女性リーダー育成プログラム」では、名古屋大学大学院の4研究科(医学系研究科、生命農学研究科、国際開発研究科、教育発達科学研究科)が分野の垣根を越えて連携し、女性リーダー育成のための実践的な教育を展開しています。

始動は2014年10月からで、第1期生は日本、中国、スリランカ、パキスタン、ジャマイカから集まった、多国籍かつ多様な年齢の20人(女性16人、男性4人)。本プログラムには男女共同参画に対する意識の高い男子学生も加わり、教員や関係者もバラエティに富んでいます。異分野の方々との連携は、産婦人科医である私にとっても刺激的で、新しい視点を得ることができました。ぜひ学生

にも、総合大学だからこそ可能な分野融合プログラムを通じ、俯瞰的な眼を養ってもらいたいと思います。

海外実地研修で アジアの問題と女性の活躍を知る

2015年1月にはベトナムで実地研修を行い、学生とともに各地の医療や農業の現場を調査しました。医療では、都市部と地方の病院を訪問。調査で明らかになった現地事情の一つが、地方の公立病院の年間分娩数が約7,000件に対し、ホーチミン市にある南部最大の産婦人科の専門国立病院では約60,000件に上ることです。数字が示すのは高度な設備が整った都市部に患者が集中する現状で、日本も同様に抱える都市と地方の医療格差の問題を学生たちは感じ取ったはず。一方、いずれの病院も女性医師が多く、働く女性を支える風土や家族形態を日本と比較し、女性の社会参画について考える契機になったのではないのでしょうか。

帰国後、研修成果の発表を行いました、

同じ体験をしても受け止め方は人それぞれで、学生同士はもちろん教員にも新たな発見がありました。研究発表を通じた個々の経験や考察の共有も、学生の成長を促すものになると感じています。

多様性を認め合い、 女性リーダーとして世界で活躍を

2年後の海外実地研修では、マレーシア、タイ、カンボジアを訪問し、学生自ら研修内容をコーディネートしてもらう予定です。アジアのウェルビーイング実現のために自分の専門性をどう活かせるのか、深く考え実践することを期待しています。

本プログラムを通じてアジア諸国の環境や文化を実感した学生は、多様性を認める心を養い、人間関係を広げていくはず。そこで得たものを糧に、将来は高い志を持つ女性リーダーとして国際社会で活躍してほしいですね。そして、いずれは日本にも、蓄えた知恵をフィードバックしてもらえればと願っています。



プログラム概要

2013年に採択された文部科学省の事業。総合大学では初めての女性リーダー育成の取り組みとなる。発展段階の異なるアジア諸国において解決すべき課題である貧困問題、健康問題、ジェンダー格差などに深く関わる「食・健康・環境・社会システム・教育」をキーワードに、分野を越えた連携教育を展開。個人の権利や自己実現が保障され、身体的、精神的、社会的に良好な状態にあるウェルビーイングの実現に資する、グローバルな女性リーダーの養成を目指す。

■ ウェルビーイング 海外実地研修 ベトナム訪問先

医療

- ・ ツーザー病院 (ホーチミン市・国立産婦人科病院)
- ・ メコン産婦人科病院 (ホーチミン市・私立産婦人科病院)
- ・ グエンディエンチュウ病院 (ベンチェ省・郡総合病院)
- ・ 助産師による新生児訪問サービス

社会

- ・ 障害者学校 (ベンチェ省)
- ・ 平和村 (ツーザー病院内)

女性リーダー

- ・ ココナツ菓子工場 (女性社長・ベンチェ省)
- ・ NPOジャポニカアグリ代表

農業

- ・ 種子センター (ベンチェ省)
- ・ 米/牛/野菜農家 (ベンチェ省)
- ・ 花/バナナ/鶏/豚農家 (ハノイ)
- ・ 国立ハノイ農業大学



ホーチミン市ツーザー病院医療スタッフと



ベンチェ省野菜農家にて



ハノイ養豚農家にて

PROFILE

YAMAMOTO, Eiko 山本 英子

2006年、名古屋大学大学院医学系研究科博士課程修了。医学博士。現在、名古屋大学アジアサテライトキャンパス学院特任准教授。専門分野は、婦人科腫瘍、絨毛性疾患。